

ファイナルレポート

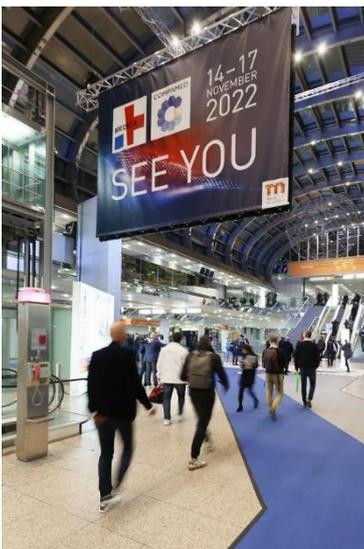


2021年12月3日

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

期待を大きく上回った MEDICA / COMPAMED 2021 ポジティブな会場の空気 – リアルな出会いが再びメッセの中心に

リアル形式で2年ぶりに開催された4日間の会期を終え、デュッセルドルフのMEDICA（国際医療機器展）、COMPAMED（国際医療機器部品展）は非常に良好な結果を残しました。世界No.1を誇る医療技術業界、医療機器部品サプライヤー分野の情報・コミュニケーションプラットフォームであるMEDICA / COMPAMEDは、2021年11月15-18日、新製品・技術や多岐にわたるテーマに関するプログラム（デジタルでも補完）を提供し、国際的に卓越したポジションであることを示しました。「メッセ会場の雰囲気はリラックスし、希望に満ちたものでした。お客様からは期待以上の成果だったとの声をいただきました。ようやくまた、対面でのコンタクトが生まれ、その関係を強化できるようになりました」と、主催者メッセ・デュッセルドルフ専務取締役エアハルト・ヴィーンカンプは語りました。



150か国・4万6,000名の来場者（国外からの割合：73%）がMEDICA 3,033社・COMPAMED 490社（日本61社）の出展者との現地でのリアルな情報交換の機会を利用しました。外来・入院診療のためのイノベーションの開発・製造に関する情報交換が行われ、多くの新製品が実際に試されました。

「これは嬉しい数字で、春の段階でこのような成果は期待していませんでした。MEDICAとCOMPAMEDは、対面で開催されるメッセをデジタルで補完することにより、業界に強い刺激を与えました。出展者からはデュッセルドルフにいられてよかったという声と、すでに来年の出展についての積極的なお問い合わせもいただいています」と、メッセ・デュッセルドルフで健康・医療技術展を統括するクリスチャン・グロッサーは参加者や業界団体からのポジティブなシグナルを発信しました。

業界ポータルサイトMEDICA.de、COMPAMED.deでは会場でのライブイベントに合わせ、さまざまなプログラムが提供されました。44回目となるGerman Hospital Conferenceやthe MEDICA MEDICINE + SPORTS

CONFERENCE では、ユーザーはメッセ併催の専門フォーラムのステージプログラムをオンラインで視聴したり、マッチメイキングツールを用いたネットワーキングに参加したり、出展者のオンラインショールームで新製品の情報を得たりすることができました。

<困難にぶつかり成長し、多くの話題を提供>

国際輸送の制限が継続される中、電子医療技術のための業界団体 ZVEI は、今年の電子医療技術市場の成長率を 8%と予測しています。「MEDICA は今年ハイブリッドメッセとして、リアル・バーチャルの両面から、革新的な医療製品や医療技術の最新動向について情報交換ができる重要なプラットフォームを提供しました。プラットフォームのおかげで、出展者は欧州のみならずグローバルな活動を続けることができます。」と、ZVEI の電子医療技術専門部会ダイレクターであるハンス=ペーター・ブルジック氏は語りました。

ドイツの業界団体 SPECTARIS で医療技術部門を率いるマークス・クールマン氏も、輸出や、他国での緊密なビジネス関係の構築の観点から見た MEDICA や COMPAMED の重要性を強調します。「革新的なアイデアやコンセプトで未来の健康市場をともに創造するためには、医療技術業界内に強固な業界ネットワークが必要です。デジタル・トランスフォーメーションの時代にあっても、個人的な対話は依然かけがえのないものであり、1年半以上続いたパンデミックの後、多くの団体会員がこのリアルな対話を心待ちにしていました。だからこそ、今年 MEDICA、COMPAMED にリアルに参加でき、医療業界が新たな刺激を得られたことを非常に嬉しく思っています。」

SPECTARIS は、ZVEI と共同で MEDICA TECH FORUM（ホール 9 およびライブ配信）を開催し、医療技術の国際市場へのアクセスや規制要件の問題を取り上げました。また、アフリカ、米国、英国の国内市場や、特にコロナウイルスの大流行に伴うロシア医療システムのデジタル化へのニーズにフォーカスが当てられました。

業界が直面している大変難しい「新しい欧州医療機器規則（MDR）の適用」というテーマに関しては、このフォーラムの参加者だけではなく、MEDICA や COMPAMED 会場内全体で活発な議論がなされ、啓蒙の必要性が示されました。「患者や利用者の安全性を最高水準で担保するためにも、原則として、医療技術における規制は適切であり重要です。しかし安全性の向上に十分な寄与をしない規制については、批判的に疑問を投げかけ、必要であれば撤回する必要があります。そうでなければ、研究・イノベーション拠点としての欧州の地位を貶めることとなります」と SPECTARIS のクールマン氏は見解を述べています。

<これからのデジタルサプライ-スタートアップ企業が関与>

予想通り、COVID-19 というテーマや、これまでのパンデミック対策で得られた新しい治療法やケアコンセプトの導入という知見は、フォーラムや付随するカンファレンスでの講演で繰り返し取り上げられました。MEDICA MEDICINE + SPORTS CONFERENCE では、いかにして COVID による長期的な疾患を乗り越え、スポーツに復帰するかという問題などが、また MEDICA ECON FORUM（Techniker Krankenkasse 主催）や MEDICA HEALTH IT FORUM では医療システムにおけるプロセスのデジタル化に焦点が当たりました。

これらのテーマに沿って、出展者は臨床および外来分野で多くの新製品・新技術を発表しました。また若いスタートアップ企業も、第 10 回を数える白熱したピッチコンテスト MEDICA Startup COMPETITION や、MEDICA CONNECTED HEALTHCARE FORUM のプログラムステージの一環として行われた第 13 回 Healthcare Innovation World Cup で、印象的な存在感を示しました。

第 13 回 Healthcare Innovation World Cup では「医療用モノのインターネット」を視野に入れたデジタルネットワークとプロセス統合のための革新的デバイスやスマートアプリケーションに重点が置かれました。300 社のエントリーの中から、審査員は 11 月 15 日のファイナルに向け、12 社のスタートアップ企業を選出しました。優勝は緑内障のテレケアに使用する生体適合性の高い埋め込み型マイクロセンサーを発表したドイツの Implants Ophthalmic Products 社でした。

人工知能 (AI)、健康アプリからロボットまで、第 10 回 MEDICA Startup COMPETITION (11 月 16 日開催) でも幅広いアイデアが発表されました。ここで優勝したのはインテリジェントな心音分析のための製品ソリューションを紹介した、フィンランドを拠点とする Phonolyser 社でした。この心音分析装置は人工知能 (信号処理・分析)、ドップラー技術 (超音波)、音分析を組み合わせ、先天的な心臓疾患を総合的に判定・診察するものです。

<サプライヤー：多くの議題が用意され、多くの新製品を持って帰途へ - 同時開催 COMPAMED>

医療技術の製造・製品開発のプロセスチェーン全体に沿ったトレンドは、COMPAMED (今回は 13・14 ホール) の出展者・来場者のビジネスと 2 つの統合された専門フォーラムのステージプログラムに顕著に現れていました。ポイントオブケア診断における課題解決のためのプリントドエレクトロニクス、スマートセンサーソリューション、マイクロ流体オプションなどと同様、革新素材も中心テーマとなっていました。



「COMPAMED 2021 は出展者にとって大きな成功で、私どもの共同ブースでのフィードバックはとても良好でした。パンデミックの影響であまり期待せずに出展した企業もありましたが、来場者の多さにポジティブな驚きを隠せませんでした。また、特に質の高い来場者について高く評価してくれた企業が多くありました」と、COMPAMED の後援団体 IVAM (マイクロテクノロジー協会) ディレクターであるトーマス R・ディートリッヒ博士はメッセの様子を総括しました。

IVAM の共同ブースは今年も COMPAMED の中で最大級でした。今回のメッセにも 9 か国から 42 の企業や研究機関が参加し、さまざまなマイクロ部品、スマートテキスタイルやスマートコーディングのためのソリューションや製造・加工方法などを紹介しました。

<渡航制限下にも拘わらず 61 社の日本企業出展、例年以上に質の高いビジターと商談内容に強い手応え>



日本企業の出展者は今年、MEDICA,COMPAMED を合わせて 61 社 (MEDICA 33 社、COMPAMED 28 社) が出展しました (欧州などからの日系現地法人出展は上記とは別に 18 社出展)。日本帰国時の隔離など、渡航制限を理由に出展キャンセルをせざるを得ない出展者もいた中、欧州法人や現地代理人などのブース人員手配での出展、また、帰国後の隔離を厭わず例年通り日本からの担当者出張など、各社創意工夫しての出展となりました。その甲斐もあり、2 年ぶりのリアル展の両展では、「対面での商談を待ち望んでいた目的意識の明確な世界中からのビジターと、内容の深い商談をすることができた」、「過去最高の出展となった」、などと評価の高い声が多数寄せられました。また会期中からは「MEDICA COMAPMED はポジティブ、帰国前の PCR 検査結果はネガティブでいきましょう」との声も参加者から上がるなど、会場はポジティブな空気に包まれていました。

MEDICA グループ出展としては、ホール 15 に例年通り**ジェトロ (写真・上)** がジャパン・パビリオンを設置し、デュッセルドルフ市と姉妹都市関係にある**千葉県 (同)** が初めてパビリオンを設置。ホール 6 では**ユニシス**がジャパン・ブランドをコンセプトに日本中小企業のパビリオンを今回も設置しました。

同じく COMPAMED では**信州大学、福島県 (写真・右)、さいたま市、横浜市**が今回もパビリオンを設置し、中小企業を中心とした関連メーカー、取引メーカーの出展や商談をサポートしました。

MEDICA 日本出展者の同展参加に関するコメントを以下に紹介します。



「期待より来場者数が多く、出展社・来場者ともに積極的な企業が多かった。このコロナ禍、世界中から来場者があったのも驚きだった。購買意欲に積極的な顧客が過去の展示会より多かった。」(エアサポート/ジェトロ・パビリオン/メイン出展製品・床ずれ防止エアマット)

「想定していたよりもブース集客が多く、また会場も賑わっているように感じた。感染対策も講じられており、比較的安心して出展ができた。販売に興味を持ってくださるディストリビュータが多くいた。」(アイカムス・ラボ/電動ピペット)

「コロナ禍での出展は非常に心配しておりましたが、想定していたよりも活況があり、多くの引き合いを得ることができました。」(ウエルコ/チューブポンプ)

「コロナ禍とあって期待していなかったが、見事に裏切ってよい商談が多かった。来客数は例年に比べると少ないが冷やかしか客が少ない分、充実した商談が出来た。商談 20 件中 10 件が試作品の話に進捗。」(アイ・メデックス/千葉県パビリオン/生体電極)



「コロナ禍の厳しい環境下、関係会社の皆さまのご協力により、フェアを成功裏に終えることができました、御礼申し上げます。今回の出展を通じてのビジネス成果も非常にありました。」(カシオ計算機・写真/皮膚観察用デジタルカメラ)

「コロナの影響もあり既存の代理店との取引が停滞していたため新規開拓が課題であったが、本来ターゲットにしていた東南アジアからは来場者が少なかった印象があり、当初はあまり成果を期待できないのではと不安もあったが、最終的には有益な商談を行うことが出来た。」(OLPASO/ジェトロ・パビリオン/採血管準備装置)

「今回当社は海外の展示会へのブース初出展だったのですが、ジェトロ様のご支援があり、準備・実施共に、大変スムーズに進めることができました。例年より出展社数や来場者数が少なかったということですが、その分、参加者は本気度の高い方が多く、ブース訪問者と非常に積極的に交流ができ、良い商談の機会となりました。」(AIメディカルサービス/ジェトロ・パビリオン/内視鏡 AI 診断支援医療機器プログラム)

「ブースへお立ち寄り頂いた人数は例年の半分程度で、名刺を頂いた数も6割程度でした。しかし、この時期にわざわざ来られると言うこともあり、商談については内容の濃いものが多く、冷やかしの来場はほぼ見られませんでした。中東や南米の方も多く見られ、ターゲットにしたい国の方々とも直接情報交換することができました。MEDICA ではこちらが各国に回らなくても、多くの国の方がブースに来ていただけるので効率が良いと感じます。」(スミロン/使用済みおむつ密封パックシステム)

「ギリギリまで先を予想することが難しい時期であったにも関わらず開催いただき大変ありがたいです。普段よりも来場者は少ないにも関わらず、内容の濃い商談を多く実施することができました。」(エクセルエンジニアリング/見守り機器)

次に COMPAMED 日本出展者の同展参加に関しますコメントを以下に紹介します。

「公式発表によると来場者は例年よりも少なかったとのことですが、質の良い新規案件の商談が例年並みにありました。また、既存客の訪問もあり、関係を強化することができました。コロナ禍で大変な時期にも拘わらず、期待以上の成果がありました。」(さいたま市産業創業財団)

「今回の COMPAMED は、コロナ禍・開催ホールの変更と今までとは違う環境での開催となりましたが、展示場所や来場者に恵まれ、今までにない件数の商談ができたと思います。集客できた名刺の枚数が過去最高であることと次につながりそうな商談が増加しました。」(オノックスエムティーティー/微細レーザー加工技術)

「今回2度目の出展となった。既存アプリケーションの同業社からの引合いは、当社としても実績があるため成約度が高いと思う。欧州では取引開始まで比較的時間が掛かることから来年度も出展したい。」(フェローテックマテリアルテクノロジーズ/医療器具用精密セラミックス部品)

「沢山の方に来場いただけ自社製品の欧州展開の可能性を実感できる機会となりました。来場者は外科医や医療代理店などプロの方々で貴重なフィードバックも頂けた。」(アルケリス/横浜市パビリオン/アシストスー

ツ)

「現地には行けなかったが、Zoom で現地と繋いで商談を実施した。カメラでブースの様子を確認できたことで、臨場感があり現時点では出来る限りの出展となったと思う。」(JVC ケンウッド/信州大学パビリオン/医用モニター)

両展日本出展企業のコメントは「[MEDICA 出展者の声](#)」、「[COMPAMED 出展者の声](#)」でもお読みいただけます。

その他の情報は以下にてご確認ください。

<https://www.medica-tradefair.com> <https://medica.messe-dus.co.jp/>
<https://www.compamed-tradefair.com> <https://compamed.messe-dus.co.jp/>

次回の MEDICA、COMPAMED は 2022 年 11 月 14-17 日、ドイツ・デュッセルドルフにて開催されます。

また、メッセ・デュッセルドルフグループがグローバルに手がける医療業界向けメッセの情報は、こちらからオンラインでご覧ください：<https://www.medicaliance.global>

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン 担当：服部

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1

ニューオータニ ガーデンコート 7F

TEL: 03-5210-9951 Mail: mdj@messe-dus.co.jp